

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

2017 年度  
事業報告書

(公益第 5 期)

(2017 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日)



公益財団法人  
ひょうごコミュニティ財団  
HYOGO COMMUNITY FOUNDATION

# 目 次

1. 概況	・・・・・・・・ 2
2. 事業	・・・・・・・・ 3
(ア) 説明会・講習会の開催	
(イ) 寄付啓発事業	
(1) ファンドレイジング事業	
(ウ) 市民活動団体への助成事業	
(2) 共感寄付事業	
(3) 「外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金」(Project HEAT) 事業	
(4) 「輝け加古川こども基金」事業	
(5) 「真如苑・ひょうご子ども応援基金」事業	
(6) NPO への助成事業	
(7) 子どもの貧困・コレクティブ・インパクトモデル事業	
(エ) 市民活動活性化につながる基金・財団への支援	
(8) 他の基金等の事務局受託等	
(オ) 調査研究事業	
(9) NPO への相談・情報提供事業	
3. 組織	・・・・・・・・
(1) 組織の基盤整備	
(2) 5周年記念事業の開催	
(3) 市民参加の推進(インターン、ボランティアなど)	
4. 決算報告	・・・・・・・・
(1) 正味財産増減計算書	
(2) 正味財産増減計算書内訳書	
(3) 貸借対照表	
(4) 財産目録	
(5) 財務諸表に対する注記	
(6) 科目内訳書	
(7) 監査報告	

※附属明細書について

2017年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

## 1. 概況

設立5年を迎え（2018年6月）、多くのご支援により当財団の運営もようやく軌道に乗ってきた。複数の助成プログラムを実施し、地域課題に取り組むNPOへの応援を通じて、市民の力でこの地域をより良くするコミュニティ財団として、一定の役割を果たしつつある。

その活動を支えてくださり、また志を共にして地域課題に「志金」をご提供くださる寄付者の方も大幅に増えてきた。新年度には新たな大型助成基金や、これまでの基金の拡大リニューアルも予定されており、地域の中での役割が拡大してきた。

他方、「休眠預金」の動きも進んできており、純民間の志金を大切にしてきた当財団にとって大きなチャレンジの 때가迫りつつある。体制も徐々に拡充してきており、これらも含めた地域からの期待に応じてゆきたい。

## 2. 事業

ア 説明会・講習会の開催
--------------

特にこの項目では実施しない。別項目として実施する。

## イ 寄付啓発事業

### (1) ファンドレイジング事業

#### (計画)

「遺贈寄付」「賛助会員」「小規模冠名基金」「寄付つき商品」を重点的に進めて行く。

遺贈寄付について昨年12月に開催した専門家・実務家向け「遺贈セミナー」に続き、本年7月にNPO向け「遺贈セミナー」を開催する。また第2回専門家・実務家向け「遺贈セミナー」も秋に開催し専門家・実務家への拡大・浸透をはかる。その他、高齢者支援NPOその他のルートも積極的に開拓する。既存の案件について丁寧なコミュニケーションを続ける。

賛助会員は引き続き、個人100名（口）、団体25団体（口）（計100万円）を当面の目標に拡大キャンペーンを行う（夏、冬）。

本年4月に契約した寄付つき商品第1号（朝日ゴルフ用品(株)の健康器具）に続き、秋には第2号として「神戸ワイナリー」のぶどうジュースの契約を目指すなど、その拡大を図る。

その他企業への基金設置、寄付つき商品、ボランティア／プロボノ情報、NPOツアーなどのCSR提案、個人へのアプローチ、既存の財団等へのアプローチを実施する。

さらに、「全国コミュニティ財団協会」「全国レガシーギフト協会」「市民ファンド推進連絡会」等とも連携し、遺贈推進の全国的な動きにも連携していく。

上記のために、メールニュース／Web／紙媒体／マスコミを通じた広報を行う。

\*法人会員など賛助会員拡大の行動計画を立て、優先的に実施する。

#### <遺贈寄付について>

当年度は遺贈寄付について飛躍的な進展があった。遺贈寄付への注力は過去2年ほどであるが、新規の相談件数、協力いただける専門家の数などが大きく増加し、最終的に遺言書に当財団の名前を書きただけの件数も増えてきた。

その中で、2017年12月15日に逝去された故有園博子さんのご遺志を受け継ぎ、尊いご資金を被害者支援の分野に活かす「有園博子基金」を設立することとなった（実際の遺贈入金は8月以降）。故人が活動への助成だけでなく、支援団体の組織基盤強化や人材育成も希望されていたこともあり、2月以降、半年以上かけて当該分野の活性化のためにどのような助成プログラムとして設計すればよいか、検討を重ねている。10年近くにわたる大型・長期の助成プログラムとなる見込みである（総額9700万円余）。

#### ○遺贈セミナー

2017年7月7日 NPO向けセミナー開催 参加26名

2017年12月6日 専門家向けセミナー開催 参加10名

#### ○遺贈関連の実績

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 (7月のみ)	計
相談件数	2件	3件	13件	2件	20件
うち、遺言書に当財団を遺贈先として書かれた件数	2件	0件	3件	0件	5件
うち、遺言書が実行された件数	1件	0件	1件	0件	2件

#### <寄付つき商品について>

昨年度契約した寄付付き商品第1号（朝日ゴルフ（株）の健康器具）に続き、第2号、第3号が実現した。「神戸ワイナリー」のぶどうジュース（（一社）こうべみのりの公社）、（株）夢工房の栄養計算ソフトウェアである。

2018年春には朝日ゴルフ（株）から253,640円が「ASAHI-MITSUHASHI 基金」として寄付された。

- |                        |           |                   |
|------------------------|-----------|-------------------|
| 1. ASAHI-MITSUHASHI 基金 | 253,640 円 | 「医療+子ども」分野への支援に充当 |
| 2. 夢工房基金               | 60,000 円  | 「子ども」分野への支援に充当    |

<その他>

10万円、50万円という単位の運営寄付（法人自体への寄付）のお話も複数出てきており、法人運営には大変有り難いため、今後も積極的に運営寄付のお願いを進めていきたい。

このように、遺贈寄付などは好調であったが、賛助会員の拡大などは十分には取り組めなかった。小口のご寄付をどう集めるかも課題である。

## ウ 市民活動団体への助成事業

### (2) 共感寄付事業

(計画)

別紙の要領にて、「随時募集」という形で再開する。

\*「随時募集」の方法を検討するが、人件費を含めて赤字にならないやり方を再開の前提とする。

「第5期」として2017年11月3日より寄付募集をスタートした。

参加団体の募集は、従来の定期的な募集から随時募集とし、支援の内容についても従来の共感寄付冊子の制作は行わず財団ホームページでの広報とした。

「第5期」は5団体/5事業が応募し、いずれも採択され寄付募集を開始した。寄付募集期限は2018年12月31日まで。財団ホームページに各団体の寄付募集内容、寄付方法及び事業について掲載した。各団体の寄付募集や寄付募集資料についてのアドバイスを実施した。

第5期寄付額は2018年6月末までで46件、2,588,000円の実績であった。

#### <第5期選考委員>

小嶋新 ((特活)しゃらくインキュベート事業部部长)

○中塚博和 ((株)日本政策金融公庫・神戸創業支援センター所長)

橋本正人 (兵庫県企画県民部県民生活局局长)

藤井洋一 ((株)神戸新聞社論説委員)

(○=委員長)

寄付募集事業、団体は次の通り。

NO.	事業	団体名	寄の付募集期間
1	ホームレス状態、安定した住居がない方への支援活動	(特活)神戸の冬を支える会	2017年11月20日 ～2018年12月31日
2	100年以上前のドイツ生まれのピアノイバツハ社のグランドピアノの音色をもう一度!!	(特活)青い家	2017年11月日 ～2018年12月31日
3	知的障害者とアーティストによる即興音楽プロジェクト	音遊びの会	2018年4月13日 ～2018年12月31日
4	「KOBEにゃんずプロジェクト」(略称:にゃんプロ)	神戸ノラネコ TNR 実行委員会	2018年1月1日 ～2018年12月31日
5	全ての外国人が安心して暮らせる多文化共生社会実現のために	NGO 神戸外国人救援ネット	2018年4月1日 ～2018年12月31日



KOBE にゃんずプロジェクトの  
不妊手術



ホームレス支援の炊き出し



### (3) 「外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金」(Project HEAT) 事業

#### (計画)

本年1月から第3期を実施中(2017年1月～12月)。助成先は第2期のこくさいひろば芦屋を継続し、新規に(公財)神戸YWCAを加え2団体。第2期は全国6地域2統括団体(茨城、東京、岐阜、愛知、兵庫、沖縄。地域統括団体は東京、兵庫のみ)だったが第3期は沖縄が外された。本プロジェクトは第3期にて一旦終了する。

HSBCグループからの寄附金による当助成プログラムは第3期を持って2017年末で終了した。本助成は外国ルーツを持つ子どもたちへ学習・資格取得などを通じた進学・キャリア教育の実施支援及び促進を目的とし、第3期は全国5地域2統括団体(茨城、東京、岐阜、愛知、兵庫。地域統括団体は東京、兵庫のみ)であった。なお、3年間継続したのは東京と兵庫のみ。

今年度は当財団から「こくさいひろば芦屋」(3年間継続助成)及び「(公財)神戸YWCA」に助成を行った。

我が国は少子高齢化などの社会状況に伴い外国人が増え続けており、最近の外国人労働者受け入れ転換により加速化する可能性もある。本事業で支援する外国ルーツを持つ子どもたちも今後増え続け、公的制度が置き去りにされ支援団体の対応がさらに求められる状況にある。

当財団も今後ともこのテーマに取り組む機会をつくっていきたい。



こくさいひろば芦屋の2017年度総会で、外国ルーツの子どもたちや親のスピーチの様子



外国ルーツの子どもたちの授業風景

#### (4)「輝け加古川こども基金」事業

##### (計画)

本年1月第2期助成16団体を決定した。助成対象期間は本年4月から来年3月までで、本年秋頃の中間発表会を開催する予定。第1期については3月までに事業を終えており、15団体全ての報告書を受け取った。第3期は本年10月から募集開始する。

加古川市在住の神川都様よりご寄付の「輝け加古川子ども基金」は第2期の中間発表&交流会を11月10日開催した。第1クール最終となる第3期目は10月より募集を開始し、2018年1月に選考委員会を開催し助成団体を採択した。助成対象期間は4月から2019年3月までである。

当助成金により、活動が発展、深化している団体もいくつか見られる。基金のテーマや地域、助成の方法など検討を加え、第2クール(第4期～第6期)として来年度もテーマを拡大して実施する予定。

##### 【3期目の募集と選考の流れ】

2017年

10月27日 記者発表、募集開始

10～12月 説明会、個別相談会を加古川にて実施

12月22日 応募締切

2018年

2月10日 選考委員会

【助成期間】2018年4月1日～2019年3月31日

##### 【応募状況と採択団体】

###### (1) 応募状況

応募団体	基本コース	16団体
	発展コース	12団体
	合計	28団体(詳細別紙)

###### (2) 選考結果

採択団体	基本コース	11団体	助成額	計	807,000円
	発展コース	8団体	助成額	計	2,986,000円
助成総額	計	3,793,000円			



中間発表&交流会の様子

##### 【選考委員】

委員長	吉田実盛氏	(鶴林寺真光院住職)
委員	石堂美紀代氏	((特活)子育てサポート☆きらりing 前理事長)
委員	柏木登起氏	((特活)シミズシーズ代表理事)
委員	勝木洋子氏	(神戸親和女子大学教授)
委員	田畑道昭氏	((株)神戸新聞東播支社長)
委員	桑田純一郎氏	(但陽信用金庫理事長)
委員	山崎清治氏	((特活)生涯学習サポート兵庫理事長)



真剣に議論する選考委員会

##### 【協力】

特定非営利活動法人シミズシーズ

## (5)「真如苑・ひょうご子ども応援基金」事業

### (計画)

宗教法人真如苑による冠基金で第1期は5団体に助成決定し、助成対象期間は本年6月までおこない、第2期については第1期終了後に実施する。

宗教法人真如苑による「真如苑・ひょうご子ども応援基金」は、子どもの貧困や孤立への対策に取り組む、神戸、阪神及び東播磨地域の市民活動団体を支援する。第2期目を9月11日より募集開始し、応募締切は10月9日。助成金額は上限50万円(3団体程度)／総額110万円。

また今回は第2期、第3期と継続助成も申請可能とした。

助成団体の中間報告会として第1期助成団体交流会を2017年9月14日に開催。助成団体5団体の4団体5名が参加し、団体の概要、事業の報告や意見交換を実施した。第2期助成団体交流会は2018年5月23日に開催し、真如苑のご担当者他助成団体5団体の6名が参加した。助成団体の交流により、団体の課題や資金面での課題など意見交換し、今後の活動の糧を持ち帰ってもらった。新年度も続けて第3期を実施予定である。

### 【募集と選考の流れ】

2017年

- 9月11日 記者発表、募集開始
- 10月9日 応募締切
- 10月30日 選考委員会

### 【助成期間】

- 単年度助成 2017年11月1日～2018年10月31日
- 複数年助成 2017年11月1日～2019年10月31日

### 【応募状況と採択団体】

- 応募 12団体
- 採択 5団体(採択総額1,084,000円)



助成団体交流会の様子

### 【選考委員】

- 委員長 石田賀奈子氏 (神戸学院大学 講師)
- 委員 小澤昌甲氏 (社会福祉法人神戸YMCA 福祉会 常務理事)
- 委員 曾我智史氏 (尼崎駅前法律事務所 弁護士)
- 委員 島田英樹氏 (真如苑 社会交流課)

## (6) NPO への助成事業

### (計画)

事業(1) ファンドレイジングにより集まった寄付金により助成事業を実施する。財源の集まり具合によって実施を判断するが、今年度は寄付つき商品を通じた寄付を想定している。

(ファンドレイジング(事業(1)))により冠基金等を実現する。実現したものが例えば事業(4)や(5)となる。従って本項に記載すべき内容はない)

※次年度より、事業計画から削除。

## (7) 子どもの貧困・コレクティブ・インパクトモデル事業

(計画)

昨年度に引き続き、(一社)全国コミュニティ財団協会からの委託により、「コレクティブ・インパクト」のモデル事業として、「NPO法人つなご」とともに虐待を受けた子どもの保護事業(子どもシェルターなど)に取り組む。3ヵ年事業の予定である。

(一社)全国コミュニティ財団協会の事業として「コレクティブ・インパクト・モデル事業」を全国で実施しており、当財団が実施する関西ブロックでのモデル事業の2期目を実施した。

本事業は、単なるNPO支援を超えて、行政や専門家、地域の企業・団体等が地域課題の解決のために強みを寄せ合い、コミュニティ財団がその結節点の役割を果たそうという先駆的な取り組みであり、全国コミュニティ財団協会が日本財団からの助成を受け、同協会から当財団への委託の形で実施した。

子どもの虐待支援で子どもシェルターを開設運営する「NPO法人つなご」に参加し、ネットワークを拡げ、市民社会の認知を高めていくことを目指した。

この事業は2期目で終了したが、今後も「NPO法人つなご」の支援は出来る範囲で続けていく。



NPO法人つなごのシェルター内の様子

## (8) 他の基金等の事務局受託等

(計画)

引き続き、住友ゴム工業株式会社のCSR基金等の業務を受託する。

### 【住友ゴム工業 CSR 基金のサポートおよびボランティア情報提供事業】

#### 1) 「住友ゴム工業 CSR 基金」サポート

本事業は、住友ゴム工業株式会社が従業員から募金を募り、その募金と同額を会社が負担するマッチングギフトにより地球環境問題や社会問題解決に向けた多様な CSR 活動を支援するものである。助成先は、ひょうごコミュニティ財団が推薦した団体を同社内部で選考し決める。

2017 年度は計 7 団体を推薦し、全団体が採択された (計 175 万円)。

#### 採択団体一覧

助成団体	助成金額	備考
(特活)エフエムわいわい	25 万円	継続
神戸ノラネコ TNR 実行委員会	25 万円	継続
まなびと (神戸市)	25 万円	継続
(認定特活)女性と子ども支援センターウイメンズネット・こうべ(神戸市)	25 万円	継続
ピアネット Alice(特活)	25 万円	継続
つみっ庫くらぶ	25 万円	
(特活)日本ハンザキ研究所	25 万円	

#### 2) ボランティア情報提供事業

住友ゴム工業株式会社は CSR 活動の一環として、毎月 5 日・6 日 (ゴムの日) に、同社社員約 1500 名が県内 NPO 活動に参加できるようなボランティア活動・イベント情報 (参加無料、低額のもの) を社内イントラネットで提供している。

ひょうごコミュニティ財団はこうした情報を集約し、提供する業務を受託している。情報集約には、複数のメーリングリスト等により行い、毎月 2~3 件ほどを取りまとめて提供した。より魅力的な情報の収集・提供と、社員参加の促進が課題である。

## オ 調査研究事業

### (9) NPO への相談・情報提供事業

(計画)

「休眠預金」の動きについて、当財団も場合によっては兵庫における「資金分配団体」となることも求められる可能性があり、本制度が地域の課題解決や NPO 支援に役立つ制度となるよう、必要な政策提言を行うとともに、制度実施へ向けた NPO の側の力量形成（キャパシティ・ビルディング）にも取り組む。具体的には情報提供や学習、研修など。

休眠預金活用制度について、積極的に情報収集を行うとともに、この制度が実現する際に（2019 年度以降）、地域にあるコミュニティ財団としてどのような責任を果たすべきかを理事会等で検討してきた。また、県内の他の資金助成団体（助成財団、市民ファンド等）との情報交換・意見交換等を通じ連携も図ってきた。

また、地域の NPO への情報提供や、その意見を政策に反映させる努力も行ってきた。  
（これらの活動は認定 NPO 法人 市民活動センター神戸と連携して実施した）

- 2017 年 6 月 23～27 日 兵庫県内の NPO 等との意見交換会（3 回）※前年度
- 2017 年 7 月 13 日 審議会のヒアリングに実吉代表理事が招かれ意見陳述
- 2017 年 9 月 26 日 地方公聴会に参加（大阪）
- 2017 年 9 月 28 日 「中間的整理を読む会」に参加（東京）
- 2017 年 10 月 6 日 「中間的整理」への提言を提出（NPO の法制度等改革推進会議）
- 2017 年 11 月 30 日 兵庫県内の資金助成団体による情報交換会
- 2018 年 1 月 25 日 全国ネットワーク（CEO 会議）集会（東京）
- 2018 年 2-3 月 パブリックコメント作成作業
- 2018 年 3 月 10 日 パブリックコメント提出
- 2018 年 6 月 22 日 休眠預金学習会（市民活動センター神戸等と共催）
- 2018 年 7 月 26 日 休眠預金・緊急集会（東京）※新年度

### 3. 組織

#### (1) 組織の基盤整備

懸案の職員の採用、育成について、9月に下記機能のうち(D)総務、管理担当者(会計、寄付金管理その他)を非常勤で採用し、事務局の基盤安定を図った。結果、会計・総務を中心とする事務処理体制が強化され、その反映で事業推進の強化も図られた。

常勤職員として(A)助成プログラム担当者(プログラムオフィサー;PO)を優先的に採用、育成すべく採用活動を続けている。

(A) 助成プログラム担当者(プログラムオフィサー;PO)

(B) 支援者(伴走支援)

(C) ファンドレイザー(広報担当含む)

(D) 総務、管理担当者(会計、寄付金管理その他)

これらのうち、可能なものは外注も検討している。

#### (2) 5周年記念事業の開催

当財団は2018年6月6日に設立5周年を迎えたが、今回は記念事業の開催を見送った。

#### (3) 市民参加の推進(インターン、ボランティアなど)

次の助成プログラム及び研修にはボランティアの参加を実施した。

市民参加の推進を促すとともに、今後も助成プログラムを推進するにあたり貴重な戦力になっていく。

- ・「輝け加古川子ども基金」の第2期中間報告会&交流会、第3期選考委員会
- ・「有園博子基金」企画検討委員会
- ・全国コミュニティ財団協会主催プログラムオフィサー基礎研修
- ・全国コミュニティ財団協会主催集合研修

#### (4) その他

2018年2月22日に兵庫県公益認定等委員会による立入検査を受けた。全公益法人に3~4年に一度実施されるもので、当法人は初であった。一部に改善の指摘があったが、「概ね事業の適正な運営がなされていると認められる」との検査結果であった。

## 別紙



(注) 当財団の「期」の表示について

<2012 年度>

一般第 1 期 (法人第 1 期) 2013 年 6 月 6 日～6 月 30 日 <25 日間>

---

<2013 年度>

一般第 2 期 (法人第 2 期) 2013 年 7 月 1 日～2013 年 7 月 7 日 <7 日間>

公益第 1 期 (法人第 3 期) 2013 年 7 月 8 日～2014 年 6 月 30 日 <358 日間>

---

<2014 年度>

公益第 2 期 (法人第 4 期) 2014 年 7 月 1 日～2015 年 6 月 30 日 <365 日間>

---

<2015 年度>

公益第 3 期 (法人第 5 期) 2015 年 7 月 1 日～2016 年 6 月 30 日 <366 日間>

---

<2016 年度>

公益第 4 期 (法人第 6 期) 2016 年 7 月 1 日～2017 年 6 月 30 日 <365 日間>

---

<2017 年度>

公益第 5 期 (法人第 7 期) 2017 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日 <365 日間>

---